

2011

# 教文ニュース

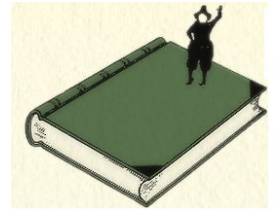
2011年  
教文4号  
文責 森  
2011/9

## ブックレビュー

### 見捨てられた高校生たち

朝比奈なを 著 新風舎刊

帯に「ひらがなが書けない高校生。ノートが買えない貧困。いくら成績が悪くても入学できる公立の『底辺校』。そこへ通う高校生たちの実態と崩壊する公教育の問題を、数々の事例を紹介しながら追った衝撃のノンフィクション」とある。



同僚にすすめられて読み始めたが、内容のほとんどが、筆者がかかわっている生徒たちと酷似しているので興味を覚えて一気に読み終えた。

その感想と拙著「子どもたちと向き合う」（クレスコ5月号～8月号）を送っていたら、著者の朝比奈さんから以下のような返事がきた。

お便りをありがとうございました。

また、添付して下さった玉稿も拝読させていただきました。特にサヤカさんの話は、やはり若くして逝った教え子を持っていますので、身につまされました。

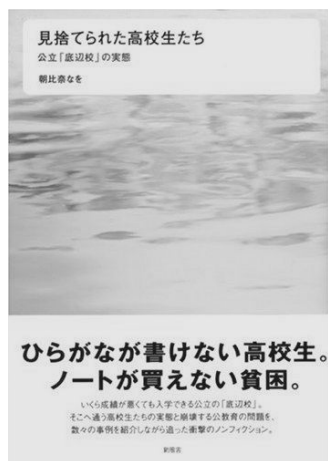
私自身は定時制高校勤務経験がないのですが、友人に定時制教員や特別支援教員がおり、いろいろと話を聞いております。また、定時制出身の大学生を教えたこと、定時制高校で進路に関するお話をする機会もあり、先生が書かれている生徒たちの状況を共感を持って読ませていただきました。

拙書では、公立底辺校の体験を書きましたが、定時制、特別支援、さらにはいわゆるサポート校に通学する生徒には共通するものがあると考えます。そこにたどり着いた生徒に少しでも「生きる力」をつけさせることが、有名大学に入る生徒を増やすより、より社会的に意味のある教員の営みではないかと考えます。

先生も、どうぞこれからも経済優先の現在の日本で見逃されがちな高校生たちの存在を、世に知らしめる活動をお願いします。私も微力ながら、努力したいと考えています。

#### [目次]

- 第1章 「底辺校」とは何か
- 第2章 無学力の実態
- 第3章 豊かさの中の「貧困」
- 第4章 愛情渴望症の生徒たち
- 第5章 教育行政への疑問
- 第6章 蟬螂の斧・結びに代えて



**是非ご一読ください。**

その他の著書  
「高大接続の“現実” “学力の交差点”からのメッセージ」（学事出版）